



スタック コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [set stack unit-type](#) (2 ページ)
- [stack unit](#) (4 ページ)
- [stack configuration](#) (5 ページ)
- [show stack configuration](#) (6 ページ)
- [show stack](#) (7 ページ)
- [show stack links](#) (8 ページ)

set stack unit-type

スタックメンバーのユニットタイプを設定するには、**set stack unit-type** 特権 EXEC モードコマンドを使用します。

set stack unit-type unit unit-id network network-type uplink uplink-type

パラメータ

- **unit unit-id** : 設定を適用するユニット ID を定義します。(範囲 : 1 ~ 4)
- **network network-type** : ユニットのネットワークポートのタイプ。次の値をサポートしています。
 - **gi** (すべてのネットワークポートタイプが **Gigabitethernet** であるデバイス用)
 - **tw** (すべてのネットワークポートタイプが **TwoPointFiveGigabitEthernet** であるデバイスの場合)。
 - **te** (すべてのネットワークポートタイプが **Tengigabitethernet** であるデバイスの場合)。
- **uplink uplink-type** : ユニットのアップリンクポートのタイプ。次の値をサポートしています。
 - **te** (**Tengigabitethernet** アップリンクポートを備えたデバイスの場合)
 - **none** (アップリンクポートのないデバイスの場合)

デフォルト設定

ユーザ定義タイプが設定されていません

コマンドモード

特権 EXEC モード

使用上のガイドライン

「存在しない」スタックユニットのタイプを定義するには、**set stack unit-type** コマンドを使用します (以下を参照)。スタック内のユニットのタイプは、このユニットのインターフェイス命名のタイプを定義し、適用できるインターフェイスレベルのコマンドを決定します。

ユニットが存在するか、またはスタックに挿入されている場合、ユニットタイプは識別されたユニットのタイプにソフトウェアによって自動的に設定されます。存在していたユニットがその後スタックから削除されると、ユニットは「**not-present**」になりますが、既存のユニットタイプは保持されます。ユニットが「**not-present**」で、以前に識別されたタイプがない (ユニットが以前スタックに存在していなかった) 場合、そのユニットタイプは自動的にアクティブユニットと同じユニットタイプに設定されます。

- **network** ポートタイプが **te** に設定されている場合は、**uplink** ポートタイプを **none** に設定する必要があります。
- **network** ポートタイプが **gi** または **tw** に設定されている場合、**uplink** ポートタイプは **te** に設定する必要があります。
- コマンドがスタック内に存在するユニットに適用されると、そのコマンドは「Unit ID X is present in stack - cannot manually set unit type」というエラーメッセージで失敗します。
- 各ユニットのユニットタイプは、リブート後にも保存され、設定ファイルヘッダーの一部として「**unit-type unit X network network-type uplink uplink-type**」の形式で表示されます。

例 1 : 次に、ユニット 3 のユニットタイプを設定する例を示します。

```
switchxxxxxx# set stack unit-type unit 3 network gi uplink te
```

stack unit

指定したスタック ユニットまたはすべてのスタック ユニットのコンテキストにユーザを配置するには、**stack unit** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。

構文

```
stack unit {unit-id / all}
```

パラメータ

- **unit-id** : 特定のユニットを選択します。このコマンドの後のすべてのコマンドは、このユニットを参照します。ユニットは、スタックのメンバーである必要があります。(範囲: 1 ~ 4)。
- **all** : スタック内のすべてのユニットを選択します。

デフォルト設定

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例 1 : 次に、ユニット コンテキストを 2 に設定し、以降のすべてのスタック コマンドがユニット 2 に適用される例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# stack unit 2
```

例 2 : 次に、ユニット コンテキストをスタックのすべてのユニットに設定し、以降のすべてのスタック コマンドがすべてのユニットに適用される例を示します。

```
switchxxxxxxx(config)# stack unit all
```

stack configuration

リブート後のポートとユニット ID を設定するには、**stack configuration** コマンドを使用します。

構文

```
stack configuration {[links ports-list] [unit-id {unit-id | auto}] }
```

```
no stack configuration
```

パラメータ

- **links** : リロード後にスタック リンクとして使用するポート リストを選択します。
- **ports-list** : カンマで区切られた1つ以上のスタックポートのリスト、またはダッシュでマークされた連続的なポートの範囲。
- **no-links** : リブート後のスタック リンクのないスタック ユニットを設定します。
- **unit-id** : リロード後に使用するユニットを選択します。（範囲 : 1 ~ 4）。スタック自動番号付け機能を有効にするには、**auto** を使用します。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

スタック ユニット モード。

使用上のガイドライン

- このコマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで実行すると、現在のスタックのアクティブユニットが設定されます。
- リロード後にスタック設定を工場出荷時に戻すには、**no stack configuration** を使用します（ユニットをリブートするには **reload** コマンドを使用します）。
- **stack unit all** コンテキストで **unit-id** パラメータの設定を **auto** 以外でコマンドを実行するとエラーが生成されます（複数のユニットを同じ ID に設定しないようにするため）。
- コマンドで指定しないオプションのパラメータは変更されません。

例1 : 次に、アクティブユニットをスタックの工場出荷時の設定にする例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# no stack configuration
```

例2 : 次に、ユニット3が自動のユニットIDでスタックリンク（ポート）te3-4を持つように設定する例を示します。

```
switchxxxxxx(config)# stack unit 3
switchxxxxxxunit# stack configuration links te3-4 unit-id auto
```

show stack configuration

スタック設定（リブート後に設定される設定を含む）パラメータを表示するには、**show stack configuration** EXEC モード コマンドを使用します。

構文

show stack configuration

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

スタック全体のスタック設定情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show stack configuration
```

Unit Id	After Reboot Configuration	
	Unit Id	Stack Links
-----	-----	-----
1	1	te1-2
2	auto	te3-4
3	4	te1-2

show stack

スタックの動作状態を表示するには、**show stack EXEC** モード コマンドを使用します。

構文

```
show stack
```

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例

スタック全体のスタック情報を表示します。

```
switchxxxxxxx# show stack  
Topology is Ring  
Units stack mode: Hybrid
```

Unit Id	MAC Address	Role	Network Port Type	Uplink Port Type
-----	-----	-----	-----	-----
1	00:00:b0:00:10:00	アクティブ	te	none
2	00:00:b0:00:20:00	Standby	gi	te
3	00:00:b0:00:30:00	メンバ	gi	te
4	00:00:b0:00:40:00	メンバ	tw	te

show stack links

スタック リンクの動作状態を表示するには、**show stack links EXEC** モード コマンドを使用します。

構文

```
show stack links [details]
```

コマンドモード

ユーザ EXEC モード

例 1 : スタック全体のスタック リンク情報を表示します。

```
switchxxxxxx# show stack links
```

Topology is Ring

Unit Id	Active Links	Neighbor Links	Operational Link Speed	Down/Standby Links
-----	-----	-----	-----	-----
1	te1/1-2	te3/4,te2/1	10G	te1/3,te1/4
2	te2/1-2	te1/2,te3/3	10G	
3	te3/3-4	te2/2,te1/1	10G	

例 2 : スタック全体のスタック リンク情報を詳細とともに表示します。

```
switchxxxxxx# show stack links details
```

Unit Id	Link	Status	Speed	Neighbor Unit Id	Neighbor Link	Neighbor Mac Address
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
1	te1	Active	10G	2	te2	00:00:b0:00:20:00
1	te2	ダウン	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
2	te1	ダウン	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
2	te2	Active	10G	1	te1	00:00:b0:00:10:00

Topology is Ring

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。